

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
大学院生研究
2003 年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院	文学	研究科	地理学	専攻
指導教員	所属・職名		氏名		
	文学部教授		豊田由貴夫 印		
自然・人文の別	自然	<input type="checkbox"/> 人文	個人・共同の別	<input type="checkbox"/> 個人	共同 名
研究課題	パプアニューギニアをめぐる華人の国際移動とエスニシティに関する文化人類学的研究				
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	地理学専攻博士課程後期6年		市川 哲 印		
研究組織	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
研究期間	2003 年度				
研究経費	200 千円				

研究の概要 (200~300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は華人の国際移動というグローバルな現象が、個別の華人コミュニティにローカルなレベルで与える影響を、文化人類学的な立場から明らかにすることを目的としている。この問題を考察するために、本研究は太平洋島嶼地域の国家であるパプアニューギニア (PNG) をめぐる華人の国際移動を選択した。そしてパプアニューギニアをめぐる華人の国際移動を、華人の生活世界を通して、地理的な広がりの中に位置付けて捉えることを試みる。こうした研究手法を採ることで、パプアニューギニアをめぐる華人の国際移動がもたらす、グローバルなレベルとローカルなレベルでのエスニシティの再構築という現象を分析した。それにより、パプアニューギニアをめぐる華人をめぐる国際移動とエスニシティの相互関係について明らかにした。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[華人社会] [グローバル化] [エスニシティ]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究助成に基づく研究は、華人の国際移動というグローバルな現象が、個別の華人コミュニティにローカルなレベルで与える影響を、文化人類学的な立場から明らかにすることを目的としている。そのための事例として、本研究では太平洋島嶼地域の国家であるパプアニューギニア (PNG) をめぐる華人の国際移動を選択した。そして文化人類学的なフィールドワークに基づく民族誌的資料に依拠し、パプアニューギニアをめぐる華人の国際移動というマクロを、地理的な広がりの中に位置付けて捉えることを試みた。

現在のパプアニューギニアの華人社会を特徴付けるのが、パプアニューギニアへと移住して来る (immigrate) 華人と、そこから移住して行く (emigrate) 華人がともに存在することである。現在のパプアニューギニアには、マレーシア、シンガポール、インドネシア、中華人民共和国等の東・東南アジア諸国から華人が移住して来る一方で、オーストラリアやニュージーランドへ再移住する華人が存在する。これらの華人はそれぞれの出身地や再移住先を横断するトランスナショナルなネットワークを形成している。

このようなパプアニューギニアをめぐる連続的な華人の国際移動とネットワークの形成は、従来の華人研究でしばしば見られた、移民母村と移民先という二点間の関係に注目する枠組みが不十分であることを教えてくれる。このような華人の移住と定住の性格を明らかにするためには、複数の地域間を横断する多様な移動経路と、それによって形成されるトランスナショナルな活動領域に注目する視点が求められる。このような問題意識により、本研究はパプアニューギニアをめぐる華人の国際移動がもたらす、グローバルなレベルとローカルなレベルでのエスニシティの再構築という現象に注目した。それにより、パプアニューギニアをめぐる華人のトランスナショナルな活動の文化人類学的研究を行うことを試みた。

上述した問題意識に基づき、本論文は華人のトランスナショナルな活動が、逆説的に各国の華人のローカルなアイデンティティを強化するという現象を、実際に移住する華人の日常的な実践に注目することにより明らかにした。華人のトランスナショナルな活動領域に注目する研究は、「華人経済圏論」や「華人ディアスポラ論」に代表されるように、国家や地域社会を超えたグローバルなネットワークやアイデンティティの構築を強調する傾向がある。しかしグローバルな性格を過度に強調する視点からは、個別地域における華人アイデンティティの重層的な性格を捉えることが出来ない。

近年の文化人類学的研究では、特定のコミュニティでのフィールドワークに依拠する実証的な研究を行うと同時に、より大規模な政治経済的状况も視野に入れた分析を目指すという、ミクロとマクロの接合の必要性がしばしば議論されてきた。だが特定の地域でのフィールドワークを主要な研究手法とする文化人類学にとって、分析枠組みの無制限な拡大は、逆にミクロなレベルからの実証的な研究の意義を減少させる恐れがある。こうした問題を避けるためには、調査地を取り巻く地域社会、国家、世界システムといったマクロな背景を視野に入れながらも、ミクロなレベルでの民族誌的調査と分析を積み重ねる作業が必要とされる。いわば研究の視点を特定の地域にのみ限定するのではなく、複数の場を視野に入れる姿勢が求められるのである。トランスナショナルな活動を行う移民を対象とした文化人類学的研究を行う際には、このような研究態度が特に重要性を持つこととなる。

このような立場から、本研究は華人の移民母村、移民先、新たな移民先、という三地点での同時進行的なフィールドワークによる民族誌的資料に基づき、パプアニューギニアをめぐる華人の国際移動を明らかにする手法を採った。そのための調査地として、本研究者はこれまでに、移民居住地としてのパプアニューギニア、移住してくる華人の出身地であるマレーシア、および移住して行く華人の目的地であるオーストラリアでのフィールドワークを実施してきた。本研究ではこうしたフィールドワークで得た資料を文化人類学的な観点から分析し、民族誌としてまとめる作業を行なった

研究成果の概要 つづき

本研究では先ずパプアニューギニアをめぐる華人の移住と定住の諸相について明らかにするために、その歴史的な背景についての文献調査を行った。パプアニューギニアの華人社会は、植民地期の特定の地域出身者から構成される、比較的一様な性格を持つコミュニティであった。だが独立以降は複数の地域出身者から構成される、多様な性格を持つ流動的なコミュニティに変化してきたことを明らかにした。

このような歴史的背景を視野に入れることにより、さらに現在のパプアニューギニアに居住する華人の定住と移住に関する諸実践を分析した。現在のパプアニューギニアの都市部では、華人は自己の生活戦略の一環として移住と定住を選択しており、その結果、華人は定住者的な性格よりも、一時滞在者的な性格を強く保持するようになっている。こうした現象は、特に現在のパプアニューギニアに流入するマレーシア華人に顕著に現れる。マレーシア華人は出身地マレーシアと移住先パプアニューギニアの両地域における経済的、社会的な要因からの影響を受け、移住と定住を繰り返している。その結果、家族や資金の分散といった、両地域を横断するトランスナショナルなネットワークが形成されている。現在のパプアニューギニアにおけるマレーシア華人のコミュニティは、こうしたトランスナショナルなネットワークを基盤として成立しているのである。

マレーシア華人は 1980 年代以降、パプアニューギニアに流入した華人ニューカマーであるが、植民地時代から居住する華人オールドカマーも、このようなトランスナショナルなネットワークを構築している。華人オールドカマーは自称として「ニューギニ・チャイニーズ」という呼称法を用いている。本研究ではこうしたニューギニ・チャイニーズのトランスナショナルな活動にも注目した。そしてそのための事例研究として、ニューギニ・チャイニーズにとっての移民母村と移民コミュニティとの関係を探り上げた。華人の移民母村については、従来、中国の出身地と移住先との関係に研究対象が限定される傾向があった。だがニューギニ・チャイニーズは数世代にわたり、中国、パプアニューギニア、オーストラリアといった三地域を横断する連続的な移住を行なって来た。そのためニューギニ・チャイニーズが持つこれらの地域との関係は、それぞれの世代ごとに変化することとなる。そのため本研究ではニューギニ・チャイニーズのライフヒストリー、およびファミリーヒストリーを分析することにより、連続的な移住経験が、それぞれの地域と個人がどのような関係を取り結ぶことになってきたかについて考察した。

現在ではこれらのニューギニ・チャイニーズは、パプアニューギニアからオーストラリアで居住する者が大多数を占める。そのためこれらオーストラリアに在住するニューギニ・チャイニーズとそのコミュニティも視野に入れた研究を行った。オーストラリアにも 19 世紀以降、華人社会が形成されていた。オーストラリアに移住したニューギニ・チャイニーズは、こうしたオーストラリア華人社会と相互交渉を持っている。そして時にはオーストラリア華人のコミュニティに参加しながらも、独自のコミュニティ活動を執り行い、出身地であるパプアニューギニアとの関係を維持している。

このようなニューギニ・チャイニーズの連続的な移住経験は、そのエスニシティに多大な影響を与えている。そのため彼ら彼女らが中国人やパプアニューギニア人、オーストラリア人、香港人や東南アジア華人、オーストラリア華人といった、その移住の過程で接触することとなった様々なエスニック・グループと自己とを、如何にして区別するのかについても考察した。そして特に他地域の華人と自己とを対比する際に、自他を「同じ華人」として認識する場合と、自他を「別々の華人」として認識する場合の両方を分析した。そしてニューギニ・チャイニーズのエスニック・アイデンティティは、パプアニューギニア人やオーストラリア人との接触によって形成されるだけでなく、他地域の華人と接触することによっても形成されることを明らかにした。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版者、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

③ 国際シンポジウムでの発表

ICHIKAWA Tetsu 'Sojourning as Strategic Practice of Ethnic Chinese in Papua New Guinea.' at International Symposium, "Globalization as History.", Rikkyo University, 14th March, 2004.

④ 学会発表

市川 哲 「家族の戦略としての移住とその変容過程—パプアニューギニア・オーストラリア間の華人の移住を事例として—」日本民族学会 37 回研究大会、京都文教大学、2003 年 5 月 23 日。